

2020年度

# 藻場

## Algal Beds

はじめに

我が国の沿岸域は、磯、干潟、アマモ場、藻場及びサンゴ礁に代表される生物多様性の高い貴重な生態系を有しています。

私たちは、これらの生態系から魚介類や海藻などの食料を得るとともに、これらの生態系を潮干狩りや観察会などの余暇や教育活動の場としても利用しています。また、これらの生態系は、水質の浄化作用、台風等による高波を防ぐ作用、二酸化炭素を吸収する作用などを通じて、私たちの生活基盤を支える上で重要な働きを担っています。

「藻場」とは？

海藻類（緑藻、褐藻、紅藻）が群生した生態系のことを示します。ホンダワラ類、アラメ・カジメ類、コンブ類など、様々な藻場があります。

藻場は、我々にとって産業上重要な場であるだけではなく、沿岸域の様々な海洋生物にとっても主要な生産の場です。生息・採餌・産卵の場所として藻場が利用されるため、生物多様性の極めて高い生態系であると言えます。

竹野サイト（兵庫県）

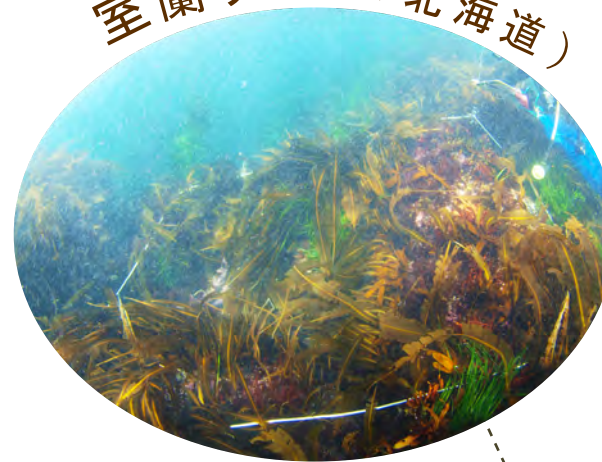


藻場調査

平成20年度から「毎年調査」と「5年毎調査」の2つの調査により、各サイトの海藻の種類や被度の変動から藻場の長期変化をとらえ、自然環境保全のための基礎情報を得ています。

2020年度の調査では、日本沿岸の6箇所のサイトで13度目となる毎年調査を実施し、各サイトの定点で藻場を構成する主な海藻種の被度などを調べます。

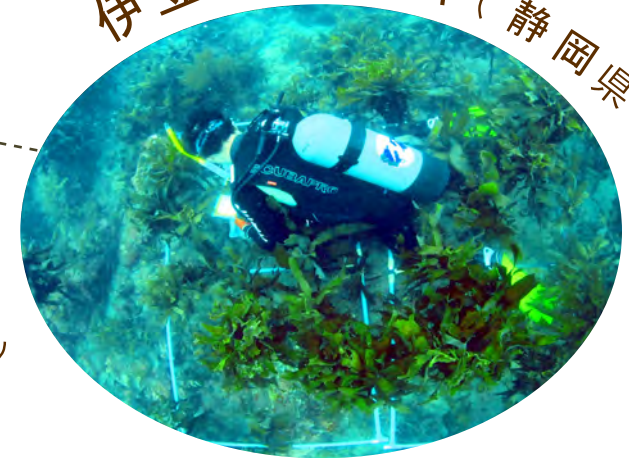
室蘭サイト（北海道）



志津川サイト（宮城県）



伊豆下田サイト（静岡県）



淡路由良サイト（兵庫県）



薩摩長島サイト（鹿児島県）



### 速報掲載更新履歴

- ☑ 2021.3.23 室蘭サイト [▶ Link](#)
- ☑ 2021.3.23 薩摩長島サイト [▶ Link](#)
- ☑ 2021.1.21 志津川サイト [▶ Link](#)
- ☑ 2021.1.21 伊豆下田サイト [▶ Link](#)
- ☑ 2021.1.21 竹野サイト [▶ Link](#)
- ☑ 2021.1.21 淡路由良サイト [▶ Link](#)

### 参考情報

- ☑ モニタリングサイト1000藻場調査の調査項目と内容 [▶ Link](#)
- ☑ 2019年度モニタリングサイト1000 藻場 調査速報 [▶ Link](#)
- ☑ 2019年度モニタリングサイト1000 アマモ場・藻場 調査報告書 [▶ Link](#)
- ☑ モニタリングサイト1000沿岸域調査 磯・干潟・アマモ場・藻場 2008-2016年度とりまとめ報告書 [▶ Link](#)

モニタリングサイト1000調査速報

# 室蘭サイト

- 北海道室蘭市 -

- ▶ 内浦湾に面したチャラツナイ浜の岩礁海岸です。
- ▶ 後背地は急峻な崖で、間隙水を除いて大きな流入河川はありません。海底の底質は岩盤または岩塊で、沖合 100m で水深 5m 前後となります。
- ▶ 季節ごとに千島寒流と津軽暖流の流入が変化するため、コンブ目を中心とした多様な海藻植生が見られます。また、スガモ（海草：海産顕花植物）もパッチ状に混生しています。



▲ 調査の様子。マコブ群落の水草を構成する海藻類を観察しているところです。



▲ 岸側の水深の浅い場所では、マコブの高密度な群落が見られました。

## 調査結果概要

調査サイト内に 6 つの永久方形枠（A～F）と、岸から沖に向かって調査ラインを設置しています。毎年の調査では、永久方形枠内と調査ライン上に一定間隔で設けた調査点で、海藻の種数や被度等を調べています。

今年度のライン調査では、マコブ群落は岸側の水深の浅い場所で確認できましたが、沖合の水深2～5m 付近では広範囲に消失しているか、岩塊の上のみに点在している状態でした（写真c）。このような状況は2018年や2019年と同様であり、調査時には、岩塊の周辺にウニ類も多く見られたことから、ウニ等の食圧等に伴う磯焼けの可能性も懸念されます。

永久方形枠の調査では、マコブやスガモ等の概ね例年通りの種類が確認できましたが（写真d、e）、永久方形枠ごとに特徴的な植生の回復と衰退の様子も確認できました。2016～2017年度の調査において、マコブが消失していた永久方形枠DとFでは、昨年度（2019年度）に植生が回復し、今年度もマコブが繁茂している様子を観察できました。一方、2018～2019年度の調査において、マコブの被度が減少傾向にあった永久方形枠Cでは、今年度の調査ではマコブを確認することができませんでした。また、永久方形枠AとEでは、例年通り、それぞれマコブとチガイソ（写真 f）が優占している様子が観察されました。今後も植生の動向をモニタリングしていくことが望まれます。



▲ 海草のスガモ。マコブと同じ水深帯に見られます。



2 km  
この地図は国土地理院地図を基に作成



▲ 調査地の景観。調査地は南東に開けた入江に位置しています。



▲ 沖合では、かつて広範囲に存在していたマコブ群落のほとんどは消失し、マコブは岩塊の上等で限定的に生育していました。また、岩塊の周辺にはウニ類が多数生息していました。



▲ 永久方形枠Eでは、例年通り亜寒帯性種であるチガイソが見られました。

調査日 2020.9.10  
サイト代表者：長里千香子  
（北海道大学北方生物圏フィールド  
科学センター）

調査者・調査協力者（所属） 【写真撮影】  
長里千香子（北海道大学）  
寺田竜太（鹿児島大学）【d, e】  
島袋寛盛（水産研究・教育機構水産技術研究所）【b,c,f】

渡邊裕基（海洋生物環境研究所）【a】  
岸林秀典（日本海洋生物研究所）  
市原健介（北海道大学）  
富岡輝男（北海道大学）

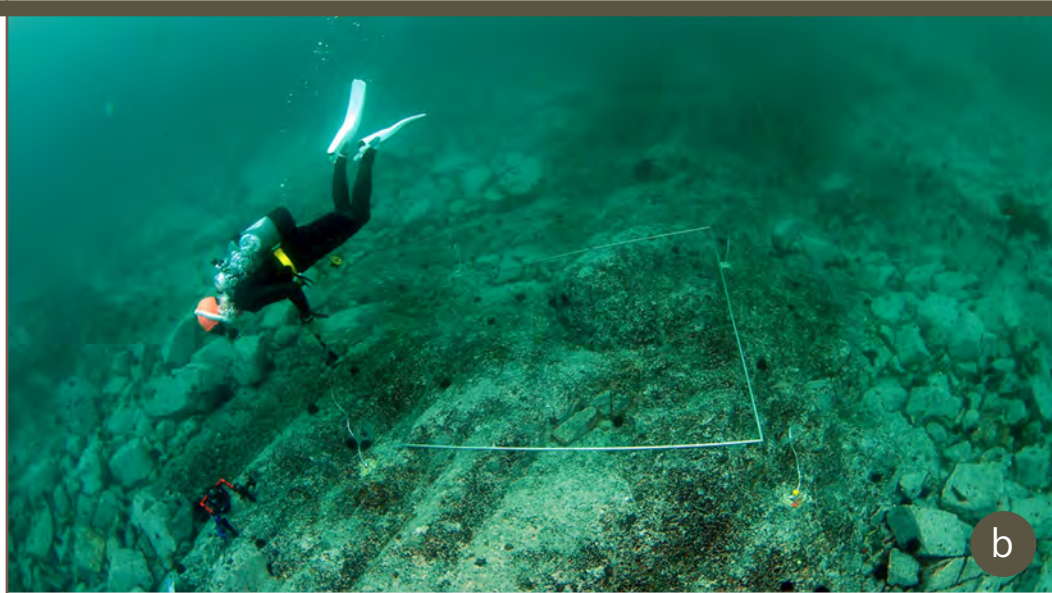
このコンテンツを使用する際は、下記のとおり出典を明記してください。  
出典：モニタリングサイト 1000 2020年度藻場調査速報（環境省生物多様性センター）  
（[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba\\_2020.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba_2020.pdf)）

これまでの藻場調査の報告書ははこちら。  
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html#2462>  
これまでの藻場調査で得られたデータはこちら。  
[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index\\_file\\_algalbeds.html](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_algalbeds.html)

# 志津川サイト

- 宮城県南三陸町 -

- ▶ 三陸の典型的なりアス式海岸の中にあり、志津川湾に浮かぶ樺島の太平洋側に面した藻場です。
- ▶ 2011年の東北地方太平洋沖地震による地盤沈下により、調査海域の水深が変化していることが確認されています。
- ▶ 基本的にはアラムが主体の群落です。岸寄りにはエゾネジモクが優占していましたが、最近の調査では、アラムの分布が岸側にずれたことに伴い、追い出されるように減少する様子が観察されています。



▲ 沖側に設置した永久方形枠の様子：永久方形枠を設置した当時（2008年）は、生息密度の高いアラム群落を確認できました。しかしながら、2011年3月の地震以降、アラム群落は徐々に衰退し、2014年7月以降は写真のような状態が続いています。



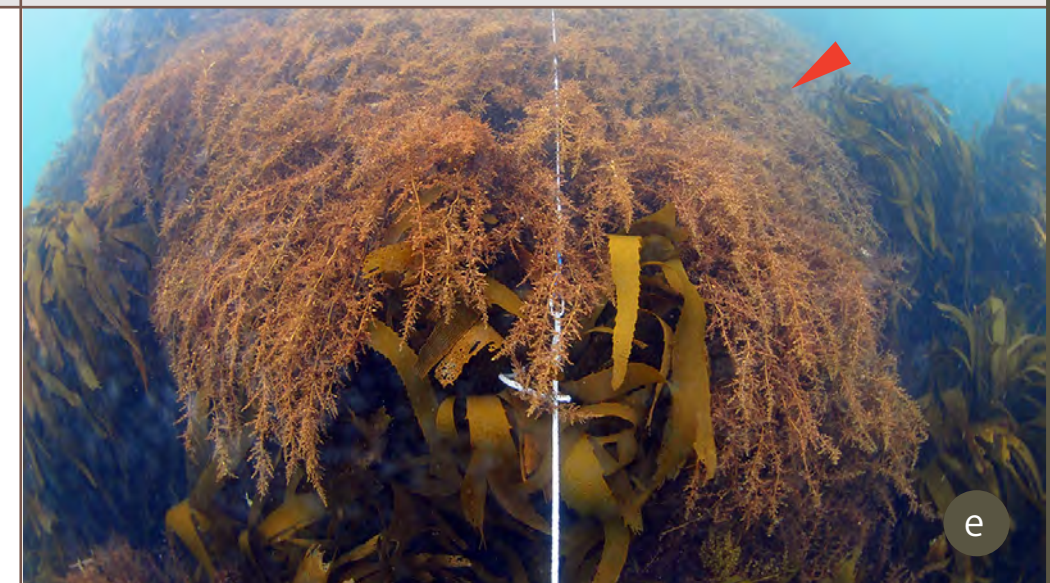
▲ 本サイトの藻場を代表するアラム：本州北中部の太平洋沿岸に生育し、アワビやウニ等の有用な動物に餌や暮らす場所を提供しています。写真中央部の緑色の植物は、海藻ではなく、海草（種子植物）のスガモです。

## 調査結果概要

調査サイト内には、永久方形枠を設置しています。毎年の調査では、永久方形枠内に生育する海藻の種類や被度を調べるとともに、岸から沖に向かって調査ラインを設定し、水深の変化に沿って海藻の種類や被度を調べています。

本調査海域では、2011年の東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下により、水深が変化し、アラムの分布が岸寄りに移動しました。アラムの分布の変化に伴って、沖側に設置した永久方形枠では、2014年度の調査以降、アラムの生育が確認できない状態が続いており、今年度の調査でもアラムを確認することができませんでした（写真b）。一方で、岸側に設置した永久方形枠では、高密度で生育するアラムの群落（写真c）が確認できました。

今年度の調査でも、昨年度と同様にアラム（写真d）とエゾネジモク（写真e）で構成される藻場の海中林が確認できました。また、調査ライン周辺では、キタムラサキウニ（写真f）やイトマキヒトデ（写真f）等の動物も観察できました。



▲ 褐藻エゾネジモク（矢印）：志津川サイトでは、アラムよりも浅い水深帯に生育しています。



▲ 調査の様子：調査ラインの終点（海面に浮かぶ赤いブイ）付近から起点となる岩礁（樺島の岸付近）を望む。調査ラインの起点に向かう調査員と調査の様子を取材するために同行した取材クルー。



▲ 岸側に設置した永久方形枠の様子：岸側に新設した永久方形枠内の海藻類の被度を計測しました。今年度の調査でも濃密なアラム群落を確認できました。



▲ 調査ライン周辺に出現したキタムラサキウニ（1）とイトマキヒトデ（2）。

調査日 2020.6.28  
サイト代表者：阿部拓三  
(南三陸町自然環境活用センター)

調査者・調査協力者(所属)【写真撮影】  
阿部拓三(南三陸町自然環境活用センター) 倉島 彰(三重大学)  
青木優和(東北大学) 太齋彰浩(デザイン・バル)  
神谷充伸(東京海洋大学) 田中次郎(東京海洋大学)【a~e】

坂西芳彦(水産研究・教育機構) 小玉志穂子(アリエル)  
水産資源研究所 青木美鈴(WU)  
鈴木将太(自然環境活用センター)  
伊藤浩吉(東北大学)【f】

このコンテンツを使用する際は、下記のとおり出典を明記してください。  
出典：モニタリングサイト 1000 2020年度藻場調査速報(環境省生物多様性センター)  
([http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba\\_2020.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba_2020.pdf))

これまでの藻場調査の報告書ははこちら。  
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html#2462>  
これまでの藻場調査で得られたデータはこちら。  
[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index\\_file\\_algalbeds.html](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_algalbeds.html)

# 伊豆下田サイト - 静岡県下田市 -

- ▶ 伊豆半島南東岸にある下田湾の支湾に位置し、外洋に面した藻場です。
- ▶ 本サイトは前面に大きな岩礁があるため波浪の影響を受けにくい一方で、海水の流動が活発であるため透明度が高い海域です。
- ▶ 温帯性コンブ目のカジメとアラムが混生する藻場です。



▲ ライン調査の様子。ライン周辺では多くのアラム・カジメの葉状部が消失し、茎状部だけの状態になっていました。下草ではフサカニノテやカニノテ等の有節サンゴモが目立ちました。



▲ 葉状部の側葉が消失して中央葉のみとなった状態のカジメ。これは藻食魚類の摂食によるものと考えられます。

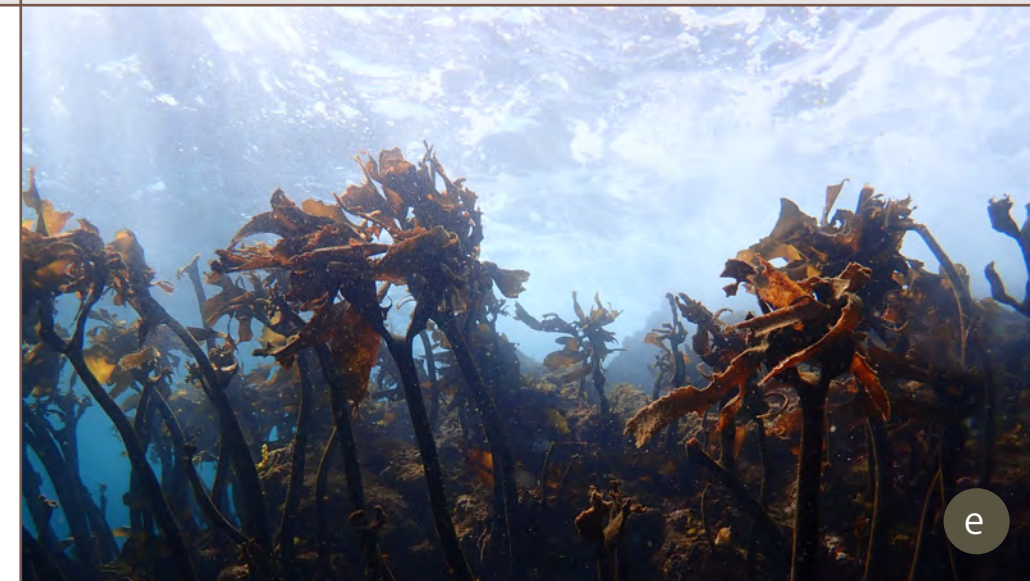
## 調査結果概要

調査サイト内の藻場に、3つの永久方形枠と調査ラインを設置しています。毎年の調査では、永久方形枠内に生育する海藻の種類や被度を調べるとともに、岸から沖に向かって調査ラインを設置し、それに沿って生育する海藻の種類や被度を調べています。

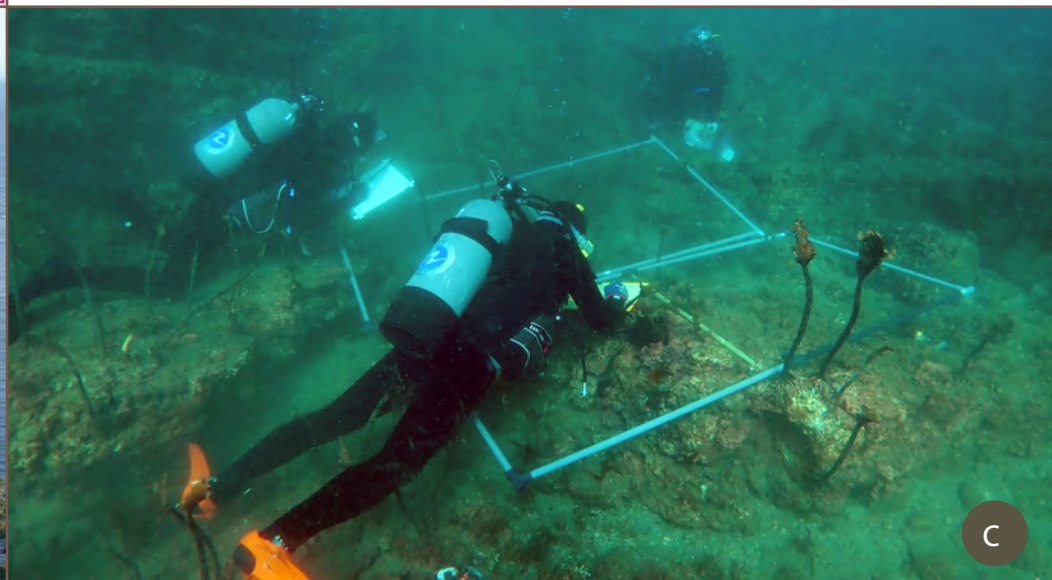
ライン調査に関して、本調査を開始した2009年度以降、海藻の種組成に大きな変化は確認されていません。しかしながら、藻場の主要な構成種であるアラム・カジメの被度が2018年度から減少しはじめ、今年度は葉状部が消失した状態の個体が数多く確認されました（写真b）。

永久方形枠調査に関して、枠内に生育していたカジメの被度は、2009年度から2017年度までは50～80%であったものの、2018年度から2019年度にかけては25～30%に減少し、今年度は葉状部がほぼ消失した状態で4.2%まで激減していました（写真c, d）。枠内に生育していたカジメの被度が減少した要因は、2018年以降の調査海域周辺の海水温が高かったこと、カジメに魚類の摂食痕が観察されたことから、高海水温とそれに伴う藻食魚類の摂食活動の活発化によるものと推測されます。

調査海域周辺では、水深の浅い場所を除き、多くのアラム・カジメが枯死して付着器や茎状部のみが残っている状態でした。また、生き残っていたアラム・カジメの周辺にも藻食魚類の群れが見られ（写真f）、オオバモク等のホンダワラ類も摂食されていました。このままの状態が継続した場合、伊豆下田サイトから藻場が消失する可能性があります。



▲ 水深の浅い場所に生育していたアラム。水深の浅い場所や波当たりが強い場所では比較的多数のアラム・カジメが見られましたが、そこでも側葉が消失している個体が見られました。



▲ 永久枠調査の様子。枠内に生育していたほとんどのカジメの側葉が消失しており、幼体もごくわずかしか確認できませんでした。調査時期はカジメが少ない時期ではありますが、この状態は季節消長によるものではないと考えられます。



▲ 藻食魚類の群れ。調査中、アイゴ、ブダイ、メジナ等の藻食魚類がアラム・カジメを摂食している様子が観察されました。



▲ 調査地景観：サイト近くのホテルより調査地点全景を望む。写真の中央に点在する岩の向こう側に調査地点を設置しています。

調査日 2020.11.5  
サイト代表者：倉島 彰  
(三重大学大学院生物資源学研究所)

調査者・調査協力者(所属) 【写真撮影】  
秋田晋吾 (お茶の水女子大学)  
神谷充伸 (東京海洋大学) 【d】  
倉島 彰 (三重大学) 【a,e,f】  
坂西彦彦 (水産研究・教育機構)

鈴木はるか (国立環境研究所) 【b】  
田中次郎 (東京海洋大学) 【c】  
渡邊裕基 (海洋生物環境研究所)  
柴田大輔 (筑波大学)  
高野治朗 (筑波大学)

このコンテンツを使用する際は、下記のとおり出典を明記してください。  
出典：モニタリングサイト 1000 2020年度藻場調査速報 (環境省生物多様性センター)  
([http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba\\_2020.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba_2020.pdf))

これまでの藻場調査の報告書ははこちら。  
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html#2462>  
これまでの藻場調査で得られたデータはこちら。  
[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index\\_file\\_algalbeds.html](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_algalbeds.html)

# 竹野サイト

- 兵庫県豊岡市 -

- ▶ 日本海の但馬海岸大浦湾に位置する岩礁海岸周辺にある藻場です。湾口部にある岩礁の内側で調査を実施しています。
- ▶ ホンダワラ類のナラサモ、ノコギリモク、ヨレモク、ヤツタモク等のほか、コンブ目のクロメやカジメ等の多様な種類の海藻が混生しています。



▲ 永久方形枠 A の様子：真上から撮影した方形枠の全景。藻場構成種としては、多年生（数年にわたって生育する海藻）のクロメ(1)やヤナギモク等のほか、一年生（数か月程度で枯死する海藻）のワカメも観察されました。

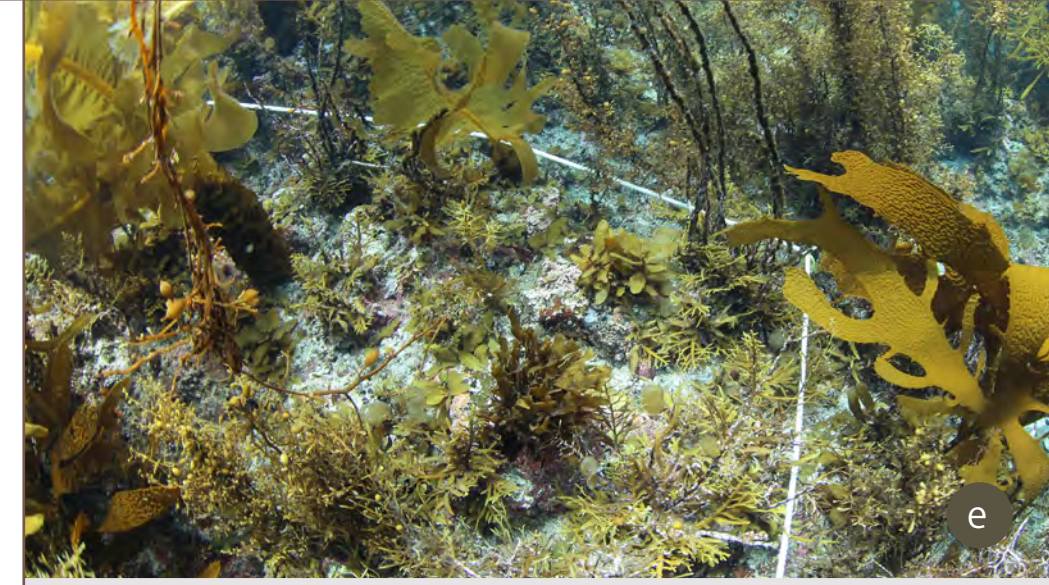


▲ 永久方形枠 C の様子：藻場を側面から撮影した近景。胞子葉(4)が発達したワカメが観察されたほか、下草として、サナダグサ、シオグサ類（成熟して生殖細胞を放出したため白化したと考えられる）、無節サンゴモ、殻状紅藻等が観察されました。

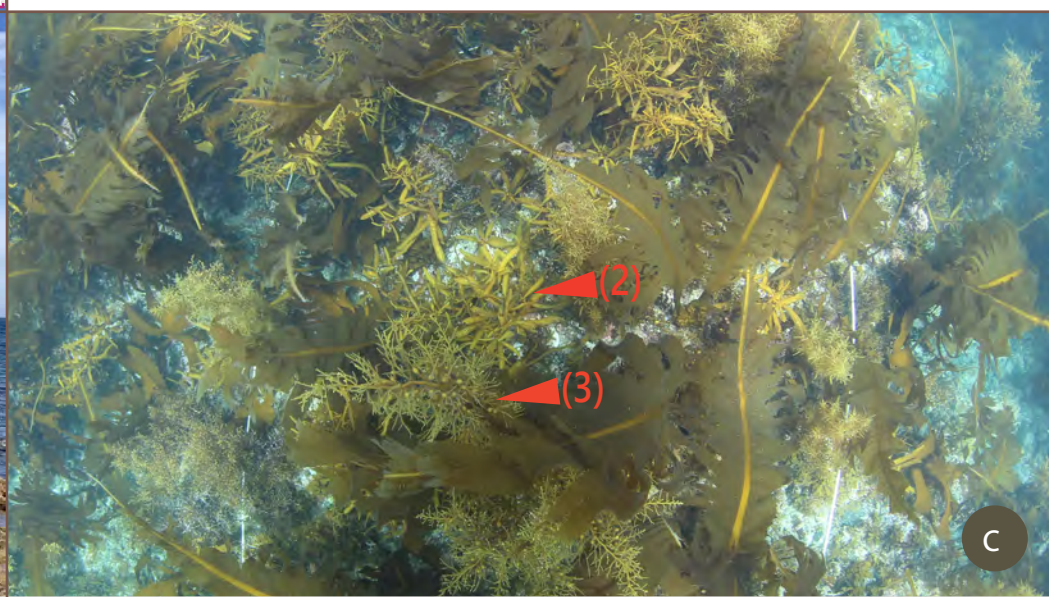
## 調査結果概要

調査サイト内には、6つの永久方形枠（A～F）を設置しています。毎年の調査では、永久方形枠内に生育する海藻の種類や被度を調べるとともに、岸から沖に向かって調査ラインを設定し、水深変化に沿った海藻の種類や被度を調べています。しかしながら、今年度の調査では、新型コロナウイルスの流行状況を踏まえ、永久方形枠内の調査のみを少人数で実施しました。

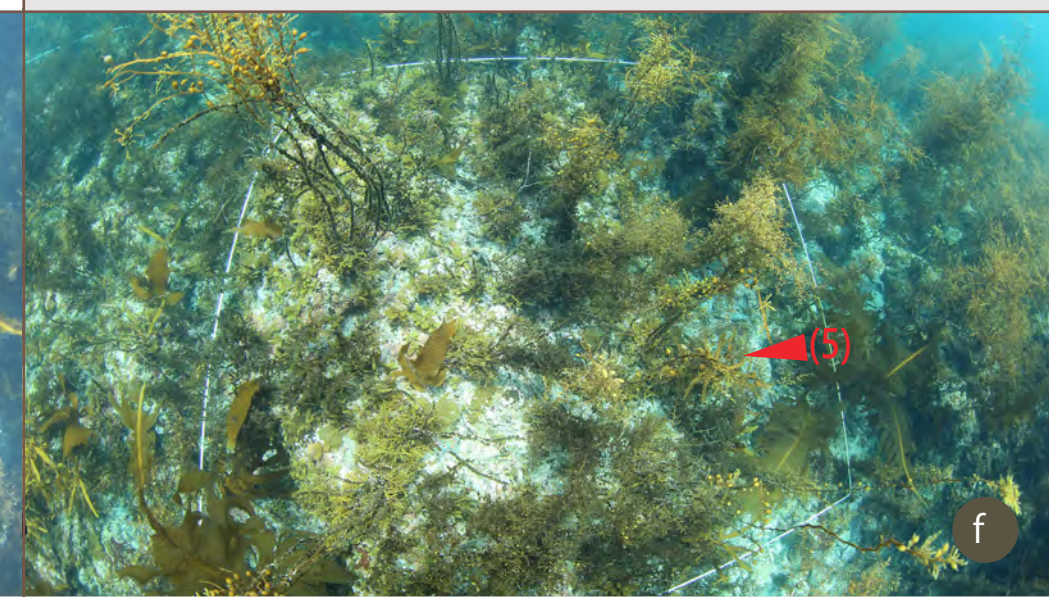
今年度の調査において、永久方形枠AとBでは、クロメ（写真b）がよく生育しており、昨年度の調査に比べて被度が顕著に増加していました。また、永久方形枠C～Fでは、藻場の樹冠を構成する種類や被度においては、例年と比べて大きな変化は見られませんでした。例年同様に、竹野サイトの各永久方形枠内では、クロメ（写真b）、ヤナギモク（写真c）、ヨレモク、ヤツタモク（写真c）、ノコギリモク（写真f）等の多年生の海藻が優占している様子が観察されました。



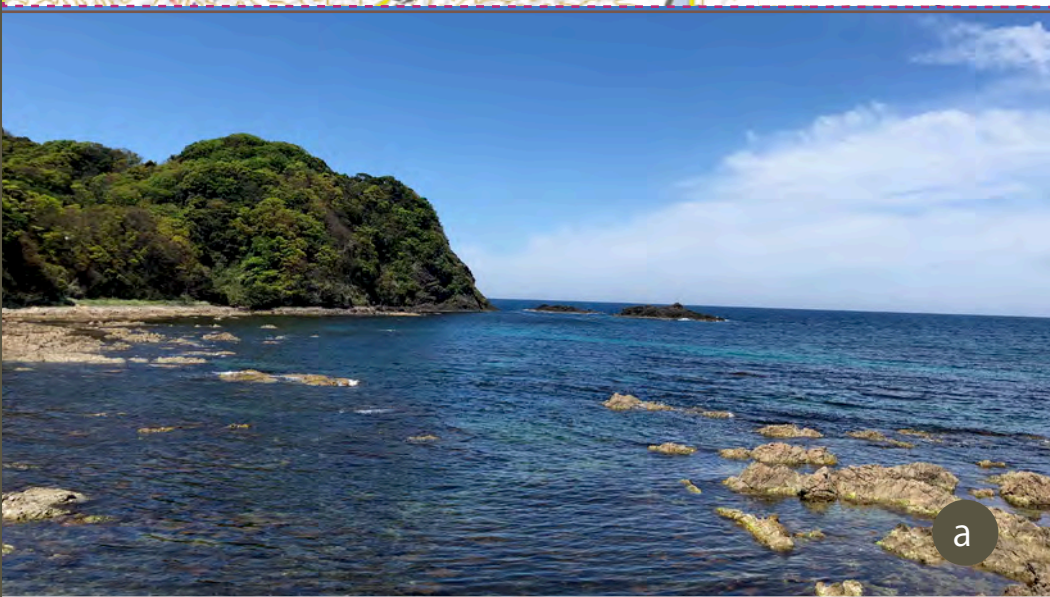
▲ 永久方形枠 D の様子：下草として、藻場の樹冠を構成するホンダワラ類の幼体、サナダグサ、フクロノリ、ヘリトリカニノテ、無節サンゴモ等が観察されました。



▲ 永久方形枠 C の様子：真上から撮影した方形枠の全景。ワカメのほか、多年生のヤナギモク(2)やヤツタモク(3)等が観察されました。



▲ 永久方形枠 E の様子：真上から撮影した方形枠の全景。藻場構成種としては、多年生のカジメ、ヤツタモクやノコギリモク(5)等のホンダワラ類のほか、ワカメ等も観察されました。



▲ 調査地景観：大浦湾奥部から、遠くに調査地点周辺を望む。

調査日 2020.5.8  
サイト代表者：上井進也  
(神戸大学内海域環境教育研究センター)

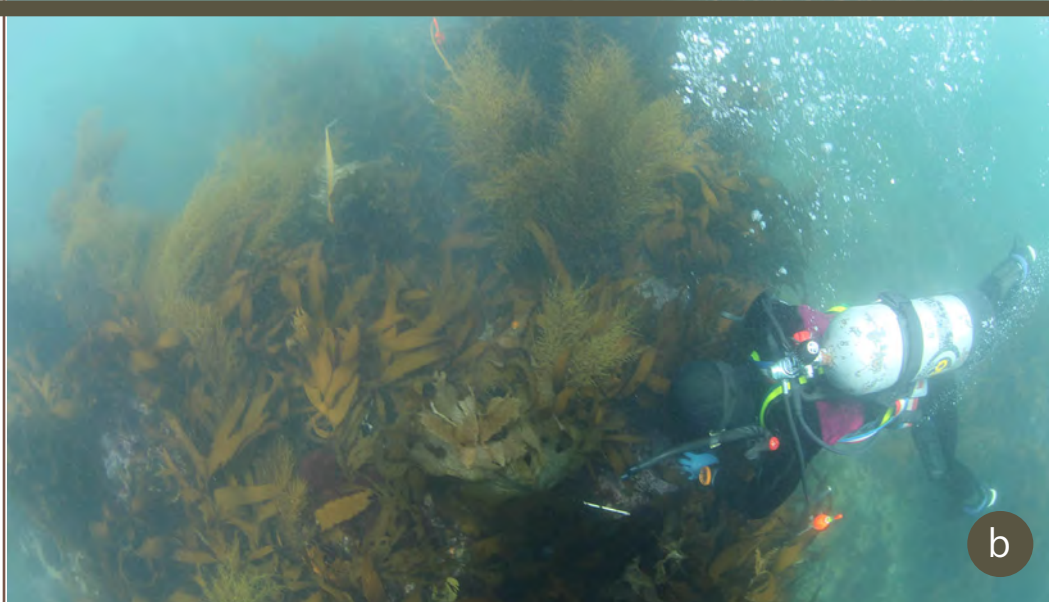
調査者・調査協力者（所属）  
川井浩史（神戸大学）【a～f】  
富岡由紀（フェロ-マリンテック）  
上井進也（神戸大学）

このコンテンツを使用する際は、下記のとおり出典を明記してください。  
出典：モニタリングサイト 1000 2020年度藻場調査速報（環境省生物多様性センター）  
([http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba\\_2020.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba_2020.pdf))

これまでの藻場調査の報告書ははこちら。  
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html#2462>  
これまでの藻場調査で得られたデータはこちら。  
[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index\\_file\\_algalbeds.html](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_algalbeds.html)

# 淡路由良サイト - 兵庫県洲本市 -

- ▶ 大阪湾と紀伊水道を結ぶ紀淡海峡の外海に面した岩礁海岸に位置し、調査地の海底の地形は緩やかに傾斜しています。
- ▶ 多年生（数年にわたって生育する海藻）の大型褐藻であるカジメとヤナギモクを中心とする藻場で、一部に一年生（数か月程度で枯死する海藻）の大型褐藻であるワカメやアカモク等が混生します。



▲ 調査風景：永久方形枠内の被度を調査しているところです。



▲ 永久方形枠 Cの様子：樹冠を構成する藻類では、カジメ、ヨレモクモドキ、下草では、マクサ、ウミウチワ、ヤブレグサ、ハラヤハズ、プリヒバ等が観察されました。

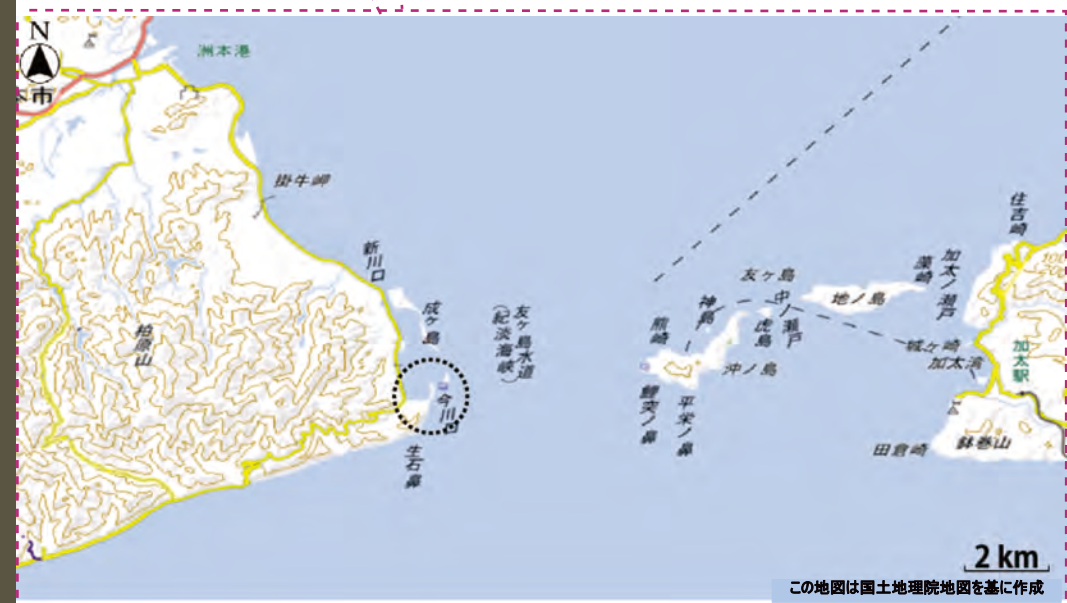
## 調査結果概要

調査サイト内には、6つの永久方形枠（A～F）を設置しています。毎年の調査では、永久方形枠内に生育する海藻の種類や被度を調べるとともに、岸から沖に向かって調査ラインを設定し、水深変化に沿った海藻の種類や被度を調べています。しかしながら今年度の調査では、新型コロナウイルスの流行状況を踏まえ、永久方形枠の調査のみを少人数で実施しました。

今年度の調査では、ほとんどの永久方形枠において、藻場の樹冠を構成する多年生藻類のうち、カジメ（写真c）の被度が例年に比べて顕著に増加していました。加えて、ヨレモクモドキ（写真c）の被度も増加していましたが、ヤナギモクはほとんど見つけられませんでした。藻場の樹冠を構成する一年生の大型褐藻類については、ワカメ（写真f）がある程度見られましたが、アカモク（写真e）はほとんど見られませんでした。すべての永久方形枠で、下草の種類は例年と比べて大きな変化は見られませんでした。



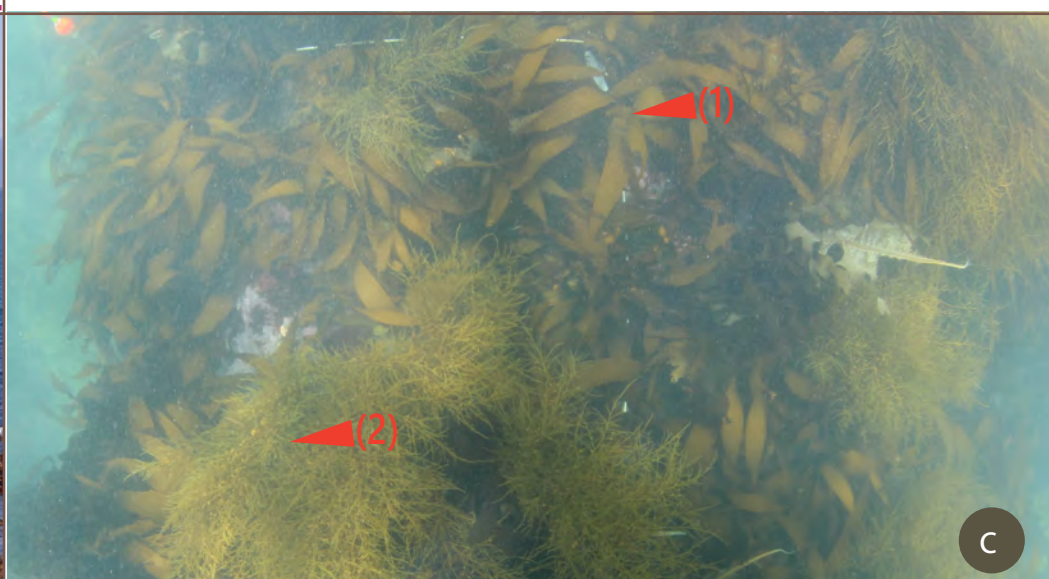
▲ 永久方形枠 Dの様子：斜め上方から撮影した永久方形枠内の全景。アカモク（3）、カジメ、ヨレモクモドキ等が観察されました。



この地図は国土地理院地図を基に作成



▲ 調査地景観：写真左上に今回の調査で使用した調査監視船（神戸大学・おのころ）が見えます。調査監視船と岩場との間に永久方形枠の位置を示すオレンジと黄色のブイ（丸枠）が浮いています。



▲ 永久方形枠 Aの様子：真上から撮影した方形枠の全景。カジメ（1）、ヨレモクモドキ（2）、ワカメ等が観察されました。



▲ 永久方形枠 Fの様子：樹冠を構成する藻類ではカジメ、ワカメ（4）、下草としては、マクサ、ウミウチワ、ヤブレグサ、エチゴカニノテ、シワヤハズ、フシツナギ、ムカデノリ、ツノマタ等が観察されました。

調査日 2020.5.7  
サイト代表者：上井進也  
(神戸大学内海域環境教育研究センター)

調査者・調査協力者(所属) 【写真撮影】  
川井浩史 (神戸大学内海域環境教育研究センター) 【a~f】  
上井進也 (神戸大学)  
富岡弘毅 (フェロ-マリンテック) 鈴木雅大 (神戸大学)  
富岡由紀 (フェロ-マリンテック) 伊集盛人 (神戸大学)

このコンテンツを使用する際は、下記のとおり出典を明記してください。  
出典：モニタリングサイト 1000 2020年度藻場調査速報 (環境省生物多様性センター)  
([http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba\\_2020.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba_2020.pdf))

これまでの藻場調査の報告書ははこちら。  
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html#2462>  
これまでの藻場調査で得られたデータはこちら。  
[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index\\_file\\_algalbeds.html](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_algalbeds.html)

# 薩摩長島サイト

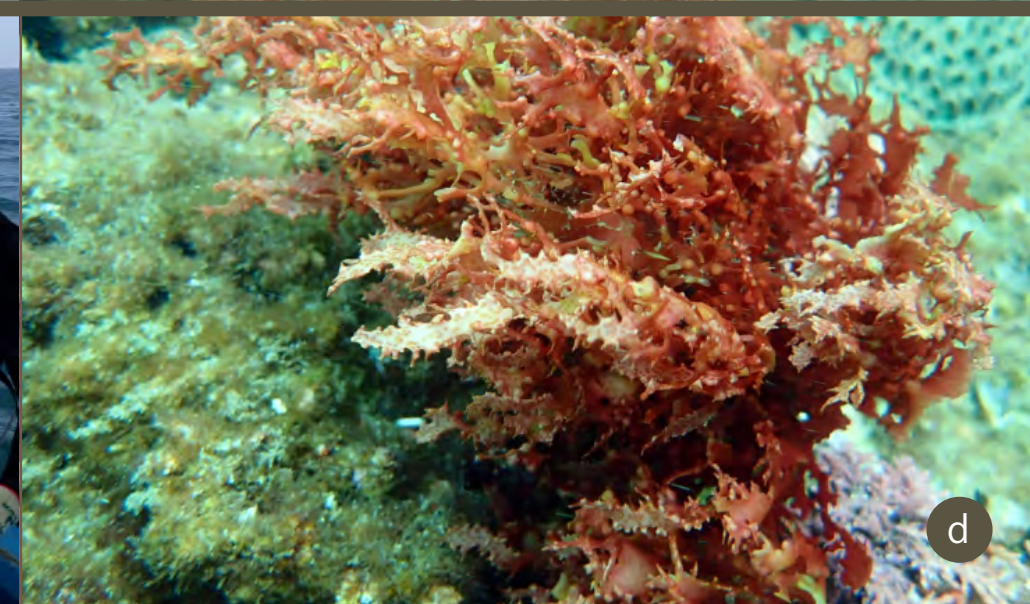
- 鹿児島県長島町 -

▶ 調査地（城川内地区堂崎）は長島西部に位置し、東シナ海に面した岩礁で見られる藻場です。また、新たにモニタリングを開始する予定の藻場は、長島北東部（諸浦島）の八代海内に位置しています。どちらも後背地は丘陵地になっており、調査地周辺に直接流入する河川はありません。

▶ 調査地は、褐藻のアントクメ（コンブ目）が優占する藻場が見られますが、東シナ海に面した藻場（城川内地区堂崎）では2016年以降、アントクメが見られなくなりました。



▲ 調査風景。潜水の準備をしている様子。調査は漁船に乗船して、SCUBA（潜水器材）を用いて実施しました。



▲ 紅藻のトサカノリ。ライン基点から20m付近で見られました。長島西岸では、海藻サラダの原料として採取されています。

## 調査結果概要

調査地（城川内地区堂崎）には、6つの永久方形枠と調査ラインを設置しています。毎年、永久方形枠内と調査ライン上の海藻の種数や被度等を調査しています。

今年度の調査では、2016年以降の調査と同様に、アントクメが消失した状態が継続していましたが（写真c）、アントクメと混生していたトサカノリ（写真d）やシマオオギ等の海藻類はこれまでどおりに生育している様子を確認できました。なお、アントクメは、調査地（城川内地区堂崎）のある長島西岸で、広範囲に消失していましたが、長島北東部（八代海内）では、例年どおり見られました。また、長島西岸ではアントクメ同様にヒジキの消失も確認されており、その分布が八代海内に限られていました。

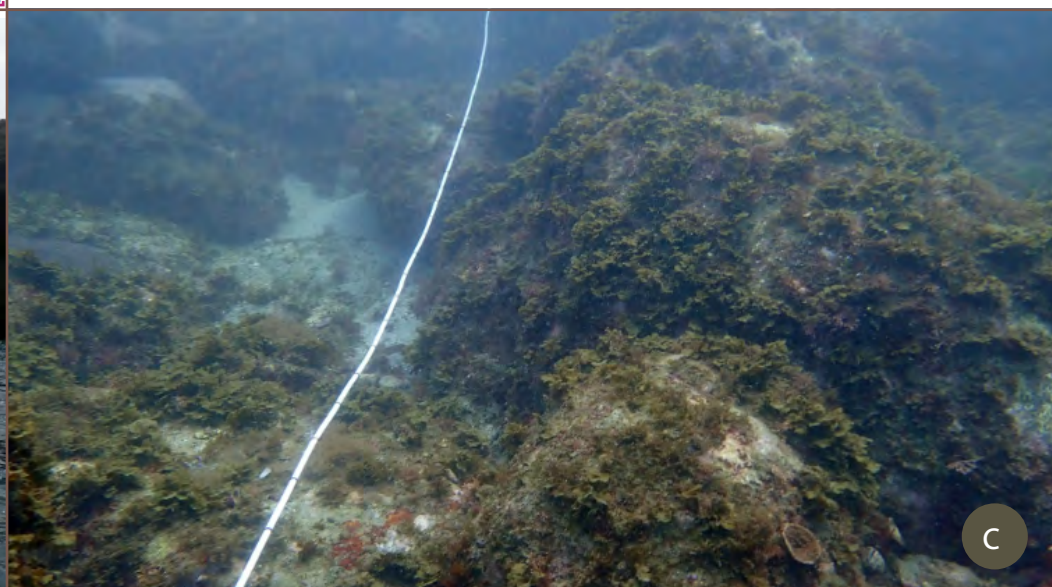
本調査では、今後もアントクメをモニタリングすることが可能な長島北東部（八代海内の諸浦島）に調査地点を新設する予定です（写真e）。そのため、今年度は、長島の北東部（八代海内の諸浦島）にて、予備調査を実施しました。



▲ 長島北東部（諸浦島）で見られたアントクメ。調査地点を新設予定の場所（八代海内）では、水深5m～20mにかけて、アントクメが高密度に繁茂していました。



▲ 調査地の景観。沖から調査ラインの基点方向を見た様子。長島西岸（城川内地区の堂崎）に位置しています。



▲ 調査地（城川内地区堂崎）の様子。下草のシマオオギ等が見られる。2016年度以降、アントクメが広範囲で消失しており、今年度の調査でも植生が回復した様子は確認できませんでした。



▲ 長島北東部（諸浦島）で見られたサンゴ類。アントクメの生育する水深帯より浅い場所では、枝サンゴ類のヒメエダミドリイシの群集が見られました。コンブ目の海藻とサンゴ類が水深によってすみ分けている状態が見られました。

調査日：2020.8.24  
サイト代表者：寺田竜太  
(鹿児島大学大学院連合農学研究科)

調査者・調査協力者（所属） 【写真撮影】  
寺田竜太（鹿児島大学）【a, c~f】  
遠藤光（鹿児島大学）  
松岡翠（鹿児島大学）【b】  
尾上 敏幸（鹿児島大学）  
丸儀 雅孝（鹿児島大学）  
北さつま漁協長島支所

このコンテンツを使用する際は、下記のとおり出典を明記してください。  
出典：モニタリングサイト 1000 2020年度藻場調査速報（環境省生物多様性センター）  
([http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba\\_2020.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/moba_2020.pdf))

これまでの藻場調査の報告書ははこちら。  
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html#2462>  
これまでの藻場調査で得られたデータはこちら。  
[http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index\\_file\\_algalbeds.html](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_algalbeds.html)